

インドネシア国アチェ州住民自立支援ネットワーク形成プロジェクト (住民活動の活性化支援)(JICA)の事例(1)

注) 本事例で紹介した全ての図表の出所は、インドネシア国アチェ州住民自立支援ネットワーク形成プロジェクト(JICA, 2009年3月)

1. 背景

2004年12月26日、インドネシア国スマトラ島沖のインド洋で起きた地震と津波による災害発生後、40カ国以上の諸機関・組織が70億ドル以上の支援を申し出た。日本政府もこの地震・津波災害後、直ちに緊急医療援助を手始めとして種々の支援を開始した。JICAはアチェ州に緊急開発調査“北スマトラ沖地震津波災害緊急復旧・復興支援プログラム(バンダ・アチェ市緊急復旧・復興支援プロジェクト)”による復興基本計画(URRP)を策定したほか、土地台帳修復、し尿処理場修復工事等を実施した。またJICAインドネシア事務所は、コミュニティにおける職業のニーズ調査、生計向上モデルの計画と実施(特産品生産等の職業訓練とビジネスプランの策定、生計向上関連小額機材供与を含む)、復興支援ラジオプログラム等を実施した。インドネシア政府は、アチェ州の持続可能な平和・安定の回復と更なる発展を目指し、地方政府との協働による住民自立ネットワークを通じた住民活動の活性化支援をJICAに要請した。

2. 業務の目的と活動内容(2007年3月-2009年3月)

目的: 復興と生計向上実現のための住民・コミュニティ自立能力の強化	
活動内容-1	ウレレ地区の3つのモデル復興事業の監理と評価
活動内容-2	モデル復興事業の他地域への展開
活動内容-3	ACE (Activity for Community Empowerment) に対するマニュアルの作成・配布
活動内容-4	ACE ネットワークの構築

3. 組織体制

インドネシア側実施期間はBRR(アチェ・ニマス復旧・復興庁)である。プロジェクトの効果的かつ円滑な実施のために合同調整委員会(JCC)を設置し、各関係機関との調整を行った。

JCCは少なくとも年に1回は開催し、以下の役割を担った。

- (1) プロジェクト年次活動計画の策定、プロジェクト全体進捗のモニターと調整
- (2) プロジェクト進捗と年次活動計画の結果のレビュー
- (3) プロジェクト実施における主要課題のレビューと意見交換

4. 活動達成状況

活動 1: ウレレ地区の3つのモデル復興事業の監理と評価

津波被害が最も大きかったバンダ・アチェ市ウレレ地区に3つのACE (Activity for Community Empowerment) モデル事業への支援を実施した。ワーキンググループ(WG)がコミュニティの中から自発的に参加した住民によって構築され、事業計画が策定された。初期計画時のグループ構成と事業概要は次表に示すとおりである。なお、事業実施に関わる技術アドバイザーとして、現地コンサルタントが雇用された。

初期計画時のウレレ地区モデル事業

Working Group (WG) ID Number	Village	No. of Group Member	Name of Leader	Proposed Production
WG-1: Briny Fish	Deah Teungoh	10名(全て男性)	Mr. Muharam	Briny Fish
WG-2: Briny Fish	Deah Glumpang	8名(全て男性)	Mr. Abdullah	Briny Fish
WG-3: Wet/Dry Cake	Deah Teungoh	15名(全て女性)	Ms. Rasydah	Wet/Dry Cake

2007年4月、総勢7名から構成されるロブスターの畜魚WG-4が発足した。しかしながら、2008年6月、ビジネス計画を見直し、組織の再構築を実施した。また、2008年10月にはWG-3を母体とするWG-3A(Fish Processing)、WG-3B(Sewing)が活動を開始した。

WG-3(ケーキ作りグループ)、WG-3A(魚加工)、WG-3B(裁縫)、WG-4(ロブスター)に対しモニタリング活動を実施した。モニタリングは、事前にマニュアル化したモニタリングシートを基に実施され、結果はローカルコンサルタントが月々に作成した月例報告書に記載された。運営状況は以下のように評価された。

- ✓ 2007年7月以降、JICA/タスクフォースからの資金注入はなかった。このことは、自己運営能力が強化されてきたことを示している。
- ✓ WG-1、WG-2は2007年8月、事業運営を放棄した。これはグループリーダーのリーダーシップが欠如していたためである。
- ✓ WG-3(ケーキグループ)は安定的便益が得られた。
- ✓ 資器材の減価償却費や内部留保の考えが浸透しなかった。会計、財務管理の能力向上が必要である。

活動 2: モデル復興事業の他地域への展開

新規21ACEは2007年3月から2009年3月まで実施された。ACEの対象地域が広大であること、次表に示すとおりACEの計画策定・実行の流れとして多数のステップを踏まなければならないこと等の理由により、プロジェクト対象地域を3分割し、3つのローカルコンサルタントにモニターさせた(分割地域1: Banda Aceh市とAceh Besar県、分割地域2: Pidie, BireunおよびAceh Tengah県、分割3: Aceh JayaとAceh Barat県)。

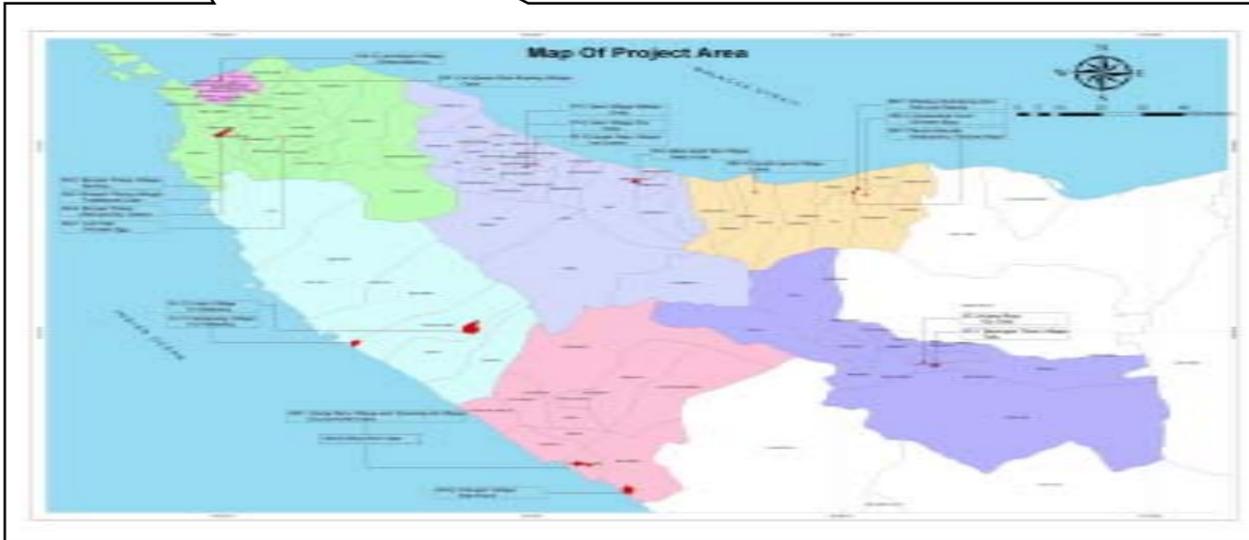
ACE計画策定・実行の流れ

フェーズ	基本作業	ステップ	概要	主作業	実施形態
I	ACE形成	1	行政単位のベースライン調査	類似プロジェクトの調査 各郡のベースライン資料収集	現地コンサルタント
		2	第一次選定(地区選定)	21ACEの行政単位への配分 地方自治体の関連組織からの要望調査	専門家チームとJCCでの合意
		3	第二次選定(ポテンシャルACEの選定)	コミュニティニーズ調査 コミュニティ対話集会 伝統地場産業、家内工業の定着状況調査 ACE予備計画	現地コンサルタント
		4	最終選考(基本ビジネスプランの評価)	ポテンシャルACEのビジネスプラン策定 資機材と初期資金の見積もり ACEグループの最終選考 ACE運営規則	現地コンサルタントと専門家チームの共同、JCCでの合意
II	ACE立ち上げと初期活動	5	ACE立ち上げ準備	オペレーションプランの策定 資機材調達 初期段階の生産材料の注入	現地コンサルタント
III	本格活動とモニタリング	6	事業の本格稼働とモニタリング	本格活動(フル活動) モニタリング開始 事業改善のアドバイス、オペレーションマニュアルの策定	現地コンサルタント
		7	ネットワーク構築	ACEフェスティバルの開催 ワークショップの開催	現地コンサルタントと専門家チームの共同
		8	地方自治体への移管	事業の引継ぎ書の締結 ワークショップ開催	専門家チーム

選定された1市6県(7地区)における21ACEグループの事業は、ケーキ、刺繍、鶏卵、伝統菓子、裁縫、干物、豆腐、稚魚、家畜などに関する生計向上プロジェクトである。活動の結果、多くのACEにおいて家計収入の増加が認められた。また、9つの新規ACEが立ち上がりネットワークに加わった。



プロジェクトの位置図



活動 3: ACE (Activity for Community Empowerment) に対するマニュアルの作成・配布

効率的な事業実施とモニタリングを目的とし、1) Planning Stage, 2) Implementation Stage, 3) Monitoring Stage の3つのStageに大分類したACEマニュアルを作成した。Planning Stageにおいては、対象地域の住民の生活伝統、慣習、宗教等を周知/熟知する必要がある。当該プログラムで実施した”Community Need Survey”等がACE形成作業において重要であった。Implementation Stageにおいては、ビジネスプランの精査が、Monitoring Stageにおいては、運営管理、ネットワーク化、不測時における事業の改善等が重要と考えられた。他地域においても利用されることを提言した。その際、地域特性に応じた修正を加えることが肝要であった。

活動 4: ACE ネットワークの構築

(1) ACE 関連ワークショップ

ACEの計画策定・実行には多くの地方自治体、NGO、住民が関わるため、JICA 専門家チームは各県庁所在地などでACE関連ワークショップを開催した。特に Bridging Operation に係るワークショップにおいては地方自治体関係者、ACEグループ参加住民、支援NGOなどの多岐の分野から参加を求め、ACEの宣伝と啓蒙に努めると同時にACEマニュアルを活用したACE形成の実践を行った。



ACE フェスティバルでのワークショップ

ACE フェスティバル(裁縫のデモ)

コミュニティ防災訓練

(2) ACE フェスティバル

JCC や ACE ワークショップにおいて、ACE に対する行政レベルの意識向上、住民間の交流意識の向上、地域 NGO の役割などについて協議した。ACE フェスティバルは、25 の ACE グループのネットワークを目指し合計 4 回開催した。

(3) ラジオ番組の活用

62 回のラジオによる啓蒙プログラムを実施し、様々なプロジェクトに関する広報・啓蒙活動を実施した。ACE を主体とした番組を編成し、ネットワーク化を図った。また、ACE フェスティバルの様子を NAD 州内にラジオ放送した。具体的には、バンダ・アチェ市で開催したフェスティバルの様子は Radio Republic Indonesia (以下 RRI) のバンダ・アチェ放送局とロスマウエ (Lhokseumawe) 中継局の 2 局を結び会場からライブで直接放送した。

(4) 防災訓練の実施

2008 年 8 月 24 日、バンダ・アチェ市・ムラクサ地区において防災訓練を日本赤十字社と合同で実施した。実施目的は、本邦政府が建設した避難道路やコミュニティビルディング等施設や機材を使い防災啓蒙活動を実施することによって、1) 地域住民組織が構築される、2) 地域間の交流が推進される、3) 防災に対する意識が向上する、4) 供与した施設や機材が継続的に有効利用されることである。

実施した結果、コミュニティ活動が活発化し、地域住民の生活環境が改善され、生活基盤が安定した。これにより、プロジェクト目標である“地方政府との協働による、住民自立ネットワークを通じて住民活動を活性化させる”ことが一部達成された。

防災訓練の詳細は、活動成果品“Disaster Management Report in Meuraxa”として報告され(インドネシア語版および英語版)、各関係機関や住民代表にビデオ CD と共に配布された。

(5) ACE グループの拡大

既存グループから新たなグループが地域をまとめるローカルコンサルタントのアドバイスを基に ACE グループが拡大された。

- ✓ バンダ・アチェ市とアチェ・ブサル県を監理する Mega Abadi の下では 3 つのグループが発足した。バンダ・アチェ市のケーキ製造を母体とする BA-1 からローカルコーヒーの販売を主な活動とする BA-1A が、アチェ・ブサル県からココナツスパイス製造を主活動とする AB-1 から同じココナツスパイス製造の AB-1A が、また、伝統菓子製造の AB-2 から独立する伝統菓子製造の AB-2A が発足した。
- ✓ ビディ・ビルン・アチェ・テンガ県を監理する ADeLCom の下では 5 つのグループが発足した。ビディではメリンジョチップス(Melinjo crisp)を製造する PI-1 からその原料(Melinjo)の調達や販売を目的に PI-1A が、ビルンでは養鶏を主活動とする BR-2 からネズミ捕りを製造する BR-2A が、ドライケーキを主活動とする BR-4 から独立した BR-4A が発足した。また、新規事業としてキャッサバの植え付け事業の BR-5 が発足した。アチェ・テンガではドライケーキを主活動とする AT-2 から独立した AT-2A が発足した。
- ✓ アチェ・パラットとアチェ・ジャヤ県を監理する SEPAKAT の下では 1 つのグループが発足した。ナマズの養殖を主な事業とする AM-3 からドライケーキを主活動にする AM-3A である。この事業はナマズ養殖が軌道に乗らずグループメンバーの生活基盤確保のために発生したものである。

なお、上記新規事業に関しての必要な当初事業資金は各グループに配分された事業資金やグループ内の資金から賄われた。